

1 出題の範囲

学習指導要領にもとづいて作成し、内容について偏ることがないようにしました。全商検定の形式を意識しつつも長野県の独自性を入れた問題にしています。

2 問題の程度

3級の試験範囲全般を取り扱うように考慮しながら、奨励級として位置づけて作問しています。基礎・基本に重点を置いた問題作成を心掛けました。試験の時期が早いことを考慮し難易度を調整しつつ、一部ではありますが次の学習へつながる思考力を問う出題としました。

3 出題の意図

(1) 第1問

3級の出題範囲全般から手形取引、当座借越、追加元入れ、有価証券の購入、通信費の計上など商品売買取引を含めた幅広い範囲より出題しました。有価証券の購入については、付随費用も発生しています。また、通信費の計上については、「スマートフォン使用料」という表現で出題し実務に即した内容を意識しています。

(2) 第2問

簿記の基本である「仕訳から総勘定元帳への転記」を重視し、平易な仕訳を取り上げ、その記帳方法について問う問題としました。

(3) 第3問

3伝票制の起票の仕方に重点を置き、その記入方法を問う問題にしました。

(4) 第4問

長野県簿記実務検定では、初出題である補助簿の選択を出題しました。初出題のため、解答例を記載することで解きやすいように調整してあります。イ.の取引について「商品有高帳」を選択することができるかがポイントになっています。

また、財産法と損益法の計算方法について出題しました。昨年度に続き、期首の具体的な表示科目を羅列しているため難易度は高いですが、各勘定が資産と負債のどちらに分類されるのかをよく考えれば解答に結びつくかと思えます。

第4問については、特に思考力を問う問題として作問しました。時間をしっかりかけて解答してもらいたい問題です。

(5) 第5問

例年出題している精算表を今年度も出題しました。決算整理については、基本的な内容としてあります。減価償却については、実施時期を踏まえ計算式を入れてあります。勘定の締め切りについては、貸倒引当金勘定としました。「決算整理仕訳を転記して、締め切る」という簿記の一巡の流れをきちんと記帳できているか聞いています。